

令和5年度 小樽市立花園小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

令和4年度全国学力・学習状況調査において、国語科においては全国平均正答率を上回ったものの、算数科においては、どの領域においても全国の平均正答率を下回った。特に図形に関して、全国や全道と比べて、その差が大きく、課題となった。また、どの教科においても「記述式」の問題や「思考・判断・表現」の項目が、全道や全国に比べて下回っているため、自分の考えを説明すること等に課題が見られる。

児童質問紙調査においては、ゲームをしている時間が全国に比べて非常に多いことや家庭での学習時間が少ないことなど、家庭生活習慣において、大きな課題が見られた。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均以上
2年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均以上
3年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均以上
4年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均以上
5年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均以上
6年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均以上

<算数科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均以上
2年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均以上
3年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均以上
4年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均以上
5年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均以上
6年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均以上

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	20分以上家庭学習をする児童を80%以上にする。
2年	30分以上家庭学習をする児童を80%以上にする。
3年	40分以上家庭学習をする児童を80%以上にする。
4年	50分以上家庭学習をする児童を80%以上にする。
5年	60分以上家庭学習をする児童を80%以上にする。
6年	70分以上家庭学習をする児童を80%以上にする。

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①「寺子屋タイム」、「ICT教材」等による漢字・計算の定着
- ②各種学力調査や「チャレンジテスト」の実施と結果分析
- ③ボランティアによる長期休業などを利用した学習サポートの実施

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①互いのよさを発揮する交流場面の工夫
- ②単元構成の工夫、ノート指導や板書構成、評価活動の工夫
- ③主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①家庭学習の手引きに基づいた家庭学習習慣の育成
- ②望ましい生活習慣を確立するための中学校との連携
- ③生活リズムチェックシートを活用した取組

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R5年	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度サポート問題）の実施 ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・学校経営方針の全体懇談会での説明 ・家庭学習の手引きの保護者への配付 ・新学力向上プランの周知、実践
	<ul style="list-style-type: none"> ○R5 全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施（第3学年・第5学年）
5月	
	<ul style="list-style-type: none"> ○標準学力調査結果分析
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業の実施
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・学校評価（中間評価）、授業評価の実施・分析 ・チャレンジテスト（1学期サポート問題）の実施 ・長期休業中の学習サポートの実施
8月	
	<ul style="list-style-type: none"> ○R5 全国学力・学習状況調査結果分析
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究授業の実施
	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への調査結果の説明
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上改善プランの評価・改善 ・学力調査小中合同説明会の実施 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同学校運営協議会の開催 ・学校評価、授業評価の実施、分析
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテスト（2学期サポート問題）の実施 ・冬休み学習サポートの実施
R6年	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・CSメンバーによる学校関係者評価委員会の開催
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の反省と次年度の計画立案・ ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・授業評価の実施、分析
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施
	<ul style="list-style-type: none"> ○新学力向上改善プランの作成 ・学校評価結果の公表 ・新年度の学校経営方針の提示

5 評価方法

- (1) ①寺子屋（漢字・計算ドリル）等による定着度の評価
 - ②全国学力・学習状況調査や標準学力調査、チャレンジテスト等による定着度の評価
 - ③長期休業中などの学習サポートの実施回数、参加人数
- (2) ①全教員の授業公開による評価
 - ②子どもの様子やノート、テスト結果の記録化による検証
 - ③公開研究会（外部講師招聘）の実施による検証
- (3) ①「全国学力・学習状況調査」、「保護者・児童アンケート」による定着度の評価
 - ②小中合同学校運営協議会、小中連携協議会等による実態の把握と研修会の実施
 - ③生活リズムチェックシートの取組結果